植木病院だより

Vol.2
平成17年7月

発行所 〒861-0136 熊本県鹿本郡植木町岩野285-29
TEL096-273-2111 FAX096-272-2117
植木町国民健康保険 植木病院
発行人 鳥越 義継

植木町国民健康保険
植木病院
―基本理念―

全人的医療の提供
信頼と満足の得られる

―基本方針―

患者さん中心の医療
高度医療提供による二次医療の完結
地域に密着した連携医療
たゆまざる質向上と自己研鑽
健全経営の確保

■暑い夏を迎えて



植木町国民健康保険 植木病院
院長 鳥越 義継

梅雨も明け夏本番を迎えました。昨年来のメリハリのある気候で今年も猛暑が予想されるとのことです。熱中症にはくれぐれもお気をつけいただきたいと思います。

医療を取り巻く環境においても、介護保険法改正に加え来年4月施行に向けて第五次医療法改正と保険診療報酬の改定作業が急ピッチで進められており、一層暑い夏になりそうです。

この第五次医療法改正案には医療機関の機能分化、重点化、効率化が盛りこまれることがほぼ確実視されており、地域別、分野別偏在による慢性的な医師不足とも相まって、今後当院を始めとした自治体病院は機能分担、連携、更には市町村合併とは別次元での再編、統合をも見据えた検討が必要になってくるものと思われます。

経済主導の感なきにしも非ずで若干違和感を覚えない訳ではありませんが、こういった流れの中で今後地域医療を守って行くためには、存在意義のある病院であり続けることが不可欠であることは言うまでもありません。

病院運営の基本方針の第1項に「患者さん中心の医療」を掲げていますが、病院を利用される地域住民の方々の支持なくしては地域医療は成立しません。我々職員は当院に課せられた使命と提供している医療を常々確認し皆様方の付託に応えていかなければならないと考えています。

部署訪問

今回は外来を紹介します。


外来診察


救急外来


処置室


処置室ラウンジ

外来スタッフ


DSA室


内視鏡室


中央処置室

昨今の医療情勢から早期退院が進むことにより、療養の場が在宅や地域へと移ってきており、外来看護師の果たす役割はますます大きくなっています。

看護部の理念である「看護の専門職業人としての真価を発揮し、地域社会及び対象個々のニーズに応え得る質の高い看護サービスを提供する」ものと、外来看護目標として 1.継続看護の充実。2.事故防止に努める。3.キャリアを開発する。4.思いやりのある態度で接する。を掲げ目標が達成できるように取り組んでいます。

昨年の病院機能評価受審にあたり外来看護に求められたものは、1.外来における看護ケアが適切に行われている。2.受診相談が行われている。3.通院中の療養指導が適切に行われている。でした。継続看護の対象者として在宅酸素療法・在宅自己注射・化学療法・インターフェロン注射・術前術後・カテーテル挿入・慢性疾患を持ちセルフコントロールが困難な方々等をあげて、外来診察の待ち時間や中央処置室での点滴中や午後に時間を設定して、その方の話しを聞いて困っていることを明らかにしてどのように対応すれば在宅での療養生活が安心して出来るのか、その方法で良かったのかを看護過程を踏まえて展開しています。外来は各ブロックで受診される方の看護、内視鏡技師を中心にクリティカルパスを用いて内視鏡検査の介助、DSA室にて心臓カテーテル検査やTAEの介助、中央処置室では採血や点滴、CT検査の造影剤注射、検査後や救急患者の観察、検査の説明等を行います、又、救急患者に即時に対応できるようにPHSを持っているスタッフ、手術室や人間ドック・健診を担当するスタッフがいます。それぞれの担当分野は専門性が要求され、緊張の連続ですが自己研鑽に努め、安全な医療を提供する一員として互いに協働しながら質の高い看護を提供したいと頑張っています。

受診が初めての方や慢性疾患を持ち通院されている方、家族や地域の方など様々な方が来院されます。私たち看護師はその方々の声に耳を傾け希望や要望を聞き取り安全に検査や治療が受けられ、在宅での生活が安心して出来るようにサポートしていきたいと考えています。外来で気付かれたことや御尋ねになりたいことなど有りましたらどうぞお気軽に御声を掛けて下さい。

TOPICS 病棟と外来の一元的看護システムについて

在院日数短縮を背景として、多くの病院で外来看護の充実を目指した努力が続けられています。術前の検査、教育等を入院前に外来で実施することが多くなっている一方、ケア度の高い退院後の患者さんに対する継続的なセルフケア指導に力を入れる等、「地域」—「外来」—「病棟」の継続看護における外来の重要性がいっそう高まっています。

医師は外来診療も行い、患者さんが入院されれば主治医として病棟でも診療を行なっています。看護においてもこの状態に近づくための方策の一つとして、6月から病棟と外来の一元化に取り組みました。

目的は個別的・継続的な看護を行なうことによる患者満足度を高めることと、看護師の職務満足度を高めることですが、看護加算に伴う看護師の効率的配置も視野にいれています。

当院の外来は外科と整形外科、内科と循環器科と2つのブロックに分かれています。又病棟も3階が外科と整形外科を主とした外科系の病棟、4階が内科と循環器科を主とした内科系の病棟となっているため関連する病棟・外来を1看護単位としました。

始めてまだ1ヶ月余でやっと移行できたところですが、病棟と外来を兼務する看護師は外来勤務後、病棟カンファレンスや入院患者の指導等、病棟業務を行ないながら継続看護のキーパーソンとして頑張っています。

1人1人の患者さんとの関わりの中で、看護の力量を高めていって欲しいと思っています。



診療情報便り

植木病院　放射線科には…

一般にレントゲン検査と言われる一般X線撮影装置、胃透視などのX線検査を行う寝台装置（X線テレビ）、乳房専用X線撮影装置マンモグラフィー、骨密度測定装置、CT（コンピュータ断層撮影装置）、MRI（磁気共鳴画像診断装置）、血管造影診断装置があります。これらの機器を用い、症状や状態・用途に合わせた検査を行うことができます。また、フィルムを使用しない画像診断システムが一部で採用され、よりスムーズな流れ、負担の軽減を目指しています。

□ CT（コンピュータ断層撮影装置）

X線を用いた検査のひとつで、コンピュータ処理することによって断層画像（輪切り）を得ることができます。マルチスライスCTの性能をいかし、短時間で微小な病変の検索を行います。胸部（肺野）など細かい情報が重要となるため、スライス厚の薄い画像が有効となります。また、3D-AngioやDIC-CTなど3次元（立体）画像なども利用することは、検査としての幅を大きく広げるだけでなく、手術や治療にも役立てられています。


CT装置


腹部CT


胸部CT（HRCT）


DIC-CT


CTアンギオ


仮想気管支鏡

□ MRI（磁気共鳴画像診断装置）

強力な磁気と、ラジオなどで使用される電波を利用して体内の状態を画像として診断する検査です。脳（血管）、または、関節・脊椎などの検査を得意とします。薬剤（造影剤）を使用せずに血管だけでなく、胆道も描出できるなど、腹部の検査でもMRIは有効な検査として多く行われています。また、現在では、造影剤を用いた検査も多くなり、診断において重要な情報を得られるため、その役割は大きい。


MRI装置


腹部MRI


脊椎MRI


MRCP

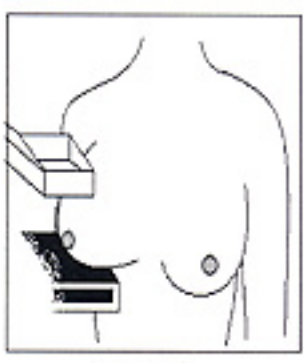

骨盤部（股関節）


MRA（頭部）

□ マンモグラフィ

乳房にX線を照射して行う検査でレントゲン検査のひとつです。乳房は柔らかく細かい組織からなるため乳房専用のX線撮影装置を使用します。この検査では、乳房をはさんで圧迫して撮影することで、乳房組織をより良く写しだし、他の検査では難しかった乳房の微小な病変の早期発見などを可能にします。


装　置


圧　迫


マンモグラフィー

～ピンクリボン運動～

アメリカの乳がん検診啓蒙キャンペーンから始まったもので、胸にピンクリボン（バッジ）を付けることで乳がん検診への意識と関心をもってもらおうというものです。乳がんでは、早期発見・早期診断が以後の治療などに大きく影響を与えるため、定期検診が重要な役割を果たします。日本でも近年、増加傾向にあり、乳がん発症年齢は40歳から50歳がピークとも言われています。（欧米では、60歳以上）



当院では町の委託（補助）で乳がん検診を実施しています。

外来からのご案内

◇健診科
①人間ドック（オプション有ります。）
　●日帰りコース　●通院2日コース　●1泊2日コース
②生活習慣病予防健診
③企業健診
④乳がん検診　触診とマンモグラフィー（町の助成金有り）
　（お問い合わせは、国保植木病院
　医事係　TEL096-273-2111内線101）

◇健康教室：3ヶ月に1回（5月・8月・11月・2月に実施予定）
　内　容：食事会と講演会
　場　所：国保植木病院　2階会議室

◇糖尿病教室：毎月第1・2・3木曜日　国保植木病院2階会議室
　（お問い合わせは、国保植木病院　外来内科
　TEL096-273-2111（内線140）

外来診療のご案内

（平成17年4月1日現在）

	診療科＼曜日	月	火	水	木	金	土
午前	内科	勇	勇	勇	勇	田渕	担当医
		田渕	松岡	田渕	松岡	松岡	
	循環器科	新冨	鶴田	西嶋	鶴田	福永	
	外科	鳥越	久米	宮村	久米	犬塚	担当医
	整形外科	緒方	紫垣	緒方	紫垣	緒方	担当医
	脳神経外科				担当医（第2・第4木曜日）		
午後	総合診療科	勇	田渕	松岡	松岡	田渕	

※午後は総合診療科として担当医が対応し、必要な場合は各科医師が対応します。
土曜日は交代で各科担当医が対応します。
脳神経外科は第2・第4木曜日の午前中のみで熊本大学付属病院医師が担当します。
循環器科新冨医師、西嶋医師、福永医師は熊本大学付属病院医師です。

診 察 日:月曜日 ～ 土曜日
休 診 日:土曜日の午後・日曜日及び祝祭日
年末年始（12月29日から翌年1月3日）
受付時間:平　日 ／ 午前 8:30 ～ 午前 11:30
午後 1:00 ～ 午後　4:30
土曜日 ／ 午前 8:30 ～ 午前 11:30
※ただし、急患の方は、いつでも受診できます。

地域医療連携室のお知らせ

当院では、各医療機関との連携を推進しております。その窓口として「地域医療連携室」を平成14年12月に開設しましたので、ご活用下さいますようお願い申し上げます。

■地域医療連携室
担当者：寺下いず美
電　話：TEL096−273−2111（代表）
096−272−0854（直通）
FAX096−272−0854（直通）



植木町国民健康保険
植木病院位置図

交通アクセス

九州産交バス
「町立病院・かがやき館前」バス停下車
熊本ー山鹿線をご利用の方は、「五霊中学校前」バス停下車
徒歩5分

乗用車
・熊本市中心部より30分
・山鹿市中心部より30分
・九州自動車道　植木インターから10分

7月に入り、梅雨入りした6月の天気がうそのように毎日雨が降りつづいて蒸し暑い日がつづいていますが、これも地球温暖化により気候が変化してきているからでしょうか?

環境省では、地球温暖化防止「国民運動」を推進するため、地球温暖化を防止する夏のオフィスの冷暖房設定温度を「28℃」程度にすることを呼びかけており、その一環として28℃の冷房でも効率的に働くことができるような「夏の軽装」を「COOL BIZ（クールビズ）」と名づけ推進しています。本町においても、平成14年度から6月1日から9月30日までの間を省エネ対策の一環として、能率的な服装の推進「サマースタイル」実施期間とされています。

当院の事務局においても、オフィスの冷暖房設定温度を「28℃」とし、服装も「COOL BIZ（クールビズ）」に取り組んでおります。

それでも暑さは否めませんが、少しでも地球温暖化防止になればと願う今日この頃です。

庶務　夏

編集後記

先日ハウステンボスの名誉総料理長、上柿元勝氏にお会いする機会がありました。

これまで幸運にも一流と呼ばれる人に何度かお会いする機会がありましたが、上柿元氏もそうですが、一流の方というのはオーラもさることながら、必ずといっていいほど清潔感を合わせもっているように思います。

プロ意識についての話。プロとは客からお金をもらいそれ以上のものを提供する。

そのためには、料理する本人がそれ以上の修行と体験をつんでおかなければならないとのこと。

修行とは、特別新しいことをするのでは無く、毎日同じことをする--毎日オムレツ200個焼く--ことを言うそうです。そのときにいかに疑問をもって取り組むかで後の成長のスピードに差がでるとか。

それから、プロの世界では同じことを3回間違った人にはもう仕事を与えないそうです。2回目まではアクシデントもあるので大目に見るそうですが、それくらい張り詰めた緊張感の中でしかプロとしては成長できないという事なのでしょう。

私たちにおいても言えることだとつくづく思いました。

上柿元氏は30数年フランス料理の修行をされてきてやっとフランス料理の入口に立ったと言われていました。

私自身、植木病院にきて4年目のまだまだ名前だけの管理栄養士。

自分への厳しさと緊張感を持ち、アンテナを張り巡らして日々仕事に取り組みたいとおもいます。

栄養科　仁志